

第1号議案

令和4年度事業報告及び収支決算報告について

概要

大杉谷登山歩道では、4月18日にオープニングセレモニーを行いました。11月23日までの登山期間中に、3935人（前年比+23%）の登山届の提出があり、入山者数は6670人（前年比+29%）でした。

8・9月は週末ごとの台風などによる悪天候が続き、登山者の足取りが遠のきました。その後、閉山までは好天に恵まれ、最終的に新型コロナウイルス感染症以前の水準まで登山者数は回復しました。

事業内容

1. 自然保護及び美化清掃の啓発

環境省より『グリーンワーカー事業（吉野熊野国立公園大杉谷登山道清掃業務）』を受託し、登山歩道の環境整備に努めました。

今年度は2回実施し、計4日間、延べ30人の活動となりました。参加者にゴミ袋を配布し、美化清掃に協力していただくことで当事者意識が生まれ、啓発に繋がったと感じています。

堂倉避難小屋周辺では、過去に捨てられたゴミが多数放置されており、来年度以降も継続して清掃活動を行っていく予定です。堂倉避難小屋の日常的な管理及び清掃については、栗谷小屋管理人に協力していただき共同で行いました。

また、登山者に対しては、ホームページやSNSでの情報発信を行い、自然保護及び美化清掃の啓発を行いました。

2. 大杉谷登山歩道の維持管理

三重県より『大杉谷登山歩道維持管理業務』を受託し、日出ヶ岳登山口から第三発電所登山口までの歩道区間において、月4回以上のパトロールや登山歩道の軽微な補修、台風後の安全確認、倒木の処理、登山者の安全を確保するための看板や施設の損傷等の点検を行いました。

歩道の簡易な修繕については、関係者の皆様にご協力いただき実施した『大杉谷登山歩道関係者整備』、一般の参加者を募った『ボランティア整備プロジェクト（森林教育及び施設整備等自然保護活動）』、並びに通常のパトロールによって対応致しました。

また、環境省の直轄管理となる平等嶺吊橋と取付歩道300mの維持管理は、環境省より『吉野熊野国立公園大杉谷線歩道施設維持管理業務』を受託し、点検パトロールや登山歩道の軽微な補修、登山者への安全啓発を行いました。

3. 安全登山の啓発

第三発電所の登山口及び大台ヶ原駐車場において、登山計画書の提出及び安全登山を呼び掛ける看板、チラシ等により啓発を積極的に行う他、ホームページやSNSを有効に活用し、大杉谷登山歩道の状況を登山者等に提供することで、事故の防止に努めました。

また、大台警察署と連携し、エスパール交通の登山バス運行日は、大杉谷自然の家前にて、登山届を直接回収する他、出発前のバスに乗り込み注意事項や危険箇所について解説し、安全登山を呼びかけました。

4. 大杉谷PR事業

大台町観光協会などの町内事業所へのパンフレット配布、およびホームページやSNSのネットメディアを活用し、大杉谷のPR活動を行いました。SNSの活用には、大杉谷の見どころや四季折々の様子、毎日の天気とイベントの告知、登山歩道のパトール及び整備状況など、こまめな情報発信を行いました。

また、PRポスターを作成し、各関係事業所や山小屋へ配布し、掲示のお願いをしました。

各種SNSのフォロワー数推移

	4月18日（開山日）	3月31日
Facebook	1484	1591
Instagram	991	1238
Twitter	585	731
Line	320	373

各地での展示イベントの開催が徐々に再開し、2年ぶりに県外PRイベントへ出展をしました。今後も積極的にイベントへの参加をしていきます。

出展イベント一覧

6月11・12日 第8回 夏山フェスタ（愛知県名古屋市）

5. 山岳遭難事故への対応

大杉谷登山歩道での山岳事故は1件でした。(死亡1件)

今シーズンは山岳救助隊の出動はありませんでした。

6. イベントの開催

三重県から受託した『森林とふれあう自然公園環境整備業務』により、一般の参加者を募集し、地元ガイドによる森林教育や、堂倉避難小屋～シャクナゲ坂区間に土留めの木柵の設置などの登山歩道の整備を行いました。

また、大杉谷登山歩道の関係者（地元ガイド、山岳救助隊、大台警察署、紀勢地区広域消防、環境省、三重県、大台町）により、シン浏の登山歩道上の水溜まりを埋めるなどの整備作業、危険箇所である事を啓発するための看板設置を行いました。

参加者の皆様のおかげで、職員だけでは中々手が回らない箇所の整備を行うことができました。今後もこれらの整備イベントは継続して行っていきます。

実施主催イベント一覧

8月6・7日	ボランティア整備プロジェクト 森林教育 及び 施設整備等自然保護活動
10月3・4日	大杉谷登山歩道関係者整備
10月29・30日	ボランティア整備プロジェクト 森林教育 及び 施設整備等自然保護活動

7. 収益事業について

登山者の利便性を図るための登山用品や地元産物等の委託販売、Tシャツなどの記念品の自主販売を行いました。

8. 寄付金

登山口付近の大日トイレを維持していくための寄付金箱を設置し、トイレ利用者からの寄付金を募りました。入山協力金に協力していただいた方には無料開放していましたが、協力金との相乗効果でトイレの寄付金に協力していただいた方も増加しました。

令和4年度 トイレ寄付金収入

81,339円（令和5年3月31日現在）

また、2件（法人1件、個人1件）の寄付金を受け賜りました。

令和4年度 寄付金収入

63,000円（令和5年3月31日現在）

9. 大杉谷入山協力金

開山期間中、訪れる登山者に協力金へのご理解とご協力をお願いしました。PayPayやインターネットによる事前決済のサービスを活用し、少しでも登山者が納入し易い環境を整えています。

併せて行ったアンケート調査では140件の回答がありました。多くの登山者から入山協力金の導入についてご賛同していただいています。

納入場所	納入金額	備考
大杉谷登山センター	1, 222, 850円	有人
自販機（大杉谷側）	1, 433, 000円	無人
自販機（大台ヶ原側）	199, 000円	無人
電子決済手数料	-40円	
受取利息	48円	
合計	2, 854, 858円	

入山協力金推移

